

陽北中学校

地域協議会だより

令和五年三月吉日発行

陽北中学校地域協議会事務局

第一回地域協議会

(六月二十一日開催)

今年度の第一回地域協議会は、新型コロナウイルス感染症への予防対策を講じながらも、三年ぶりの通常開催として、授業参観と次のような内容の報告と協議が行われました。

- 一 令和三年度事業報告・決算報告
 - 二 令和三年度学校マネジメントアンケート・学校評価結果からのご意見
 - 三 令和四年度事業計画・予算提示
 - 四 令和四年度本校の経営方針・学校評価計画・取組状況と課題について
- 今年度の協議会委員は三十七名、役員は、清島新会長・薄井副会長・後藤副会長(学校長)・渡邊監事・男鹿監事・小泉事務局員・大井事務局員(教諭)・大木事務局員(副校長)・長谷川地域学校協働活動推進員が選任されました。
- なかなか収束の兆しを見せないコロナ禍の中、状況に応じた協議会の運営を考慮しながら、陽北よさこい連と地域未来塾、地域未来会議としての生徒と

の話し合い活動、一年「働く人に学ぶ」講師紹介などの学校教育支援活動等が話し合われました。

今年度も感染対策を徹底し、このコロナ禍でも学びを保障する、学校の役割を果たすべく、生徒がしっかり学び、生き生きと活動し、豊かな心を育んでいけるよう、そして、生徒が校訓「聴く強く美しく」そして陽北中生としての誇りを持つ」を体現できるよう、学校づくりを支援していくことを確認しました。

陽北よさこい連

(八月七日実施)

今年度こそ、陽北よさこい連の本来の活動である、宮まつりの「宮っ子よさこい」へ参加すべく、地域協議会としてもその支援のため準備を進めていました。しかし、第七波のコロナ感染状況から本番直前に中止が決定となり、宮まつり当日の日曜日の午後、学校校庭での発表実施に切り替えることとなりました。

しかし、当日、伝統を自ら引き継ぐとする三年生を中心に、その晴天のごとく一寸の曇りもなく、躍動する生徒の皆さんの姿がありました。伝統の黄色と新着の赤の法被を身にまとい、校内オーディションで選ばれた三年生十八人、二年生十五人、一年生十二人の計四十五名が「陽北よさこい」「宮っ子よさこい」を披露し、保護者やPTA役員、地域協議会委員には、熱心に応援していただきました。後藤校長先生の計らいで、その勇姿をドローンで撮影しました。その映像にも、清々しく若さあふれるパフォーマーは、感謝の気持ちと、この良き伝統を引き継ぎ伝えていこうとする意志にあふれていました。



PTA奉仕作業

(十月二十九日実施)

学校教育支援活動の校内環境整備活動として、約九十名で奉仕作業を行いました。例年の校庭側溝清掃や家庭科室の片付け、ショーケースの中のトロフィー磨きに加え、今年度はテニスコー

トの除草作業を行いました。

側溝清掃は、長さ100mに及ぶ側溝にたまった砂や泥をスコップでかき出す大変な作業でした。また、テニスコートの除草作業も土が固く、また広範囲でこれまた大変な作業でしたが、皆さん熱心に活動していただきました。家庭科室はもちろん、ショーケースもピカピカになりました。これまでに勝ち取った栄光とともに、本校の良き伝統や校風を生徒に伝える役割を果たしてくれるはず



第二回地域協議会

(十一月二日開催)

第二回地域協議会は、第七波が落ち着いた十一月に十三名の委員に参加いただき、通常どおり開催いたしました。授業参観では、感染対策を講じながら授業の様子を見ることができました。感染リスクが伴うグループ学習などは避けながらも、真剣にそして楽しく学習している様子が見受けられました。IGAスクール構想に基づく個人用パソ

コンを活用して、インターネットを使って調べ学習を行ったり、与えられた課題を解決し互いに確認し合ったりするなど、ICTを活用しながら進める学習スタイルを見ていただくことができました。

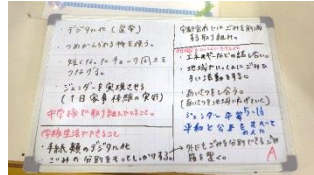
生徒会役員と地域協議会委員との話し合い活動は、今年度正式に地域未来会議として実施し、テーマも「陽北中学校そして陽北地域のSDGsを考える」とし意見交換が行われました。四つの班に分かれ、個人や学級、学校での取組の様子を発表したり、地域の取組を紹介していたたりしました。生徒の発表では、「給食の残食0運動」「トイレレットペーパーの使い過ぎを注意する呼びかけ」「生徒会選挙活動のデジタル化」など、個人や学級、生徒会や学校として取り組んでいることなど多岐にわたり発表されました。

これに対し委員からは、「資源を大切に、有効活用する意識を持っていて素晴らしい。」などの感想や「生徒皆さんの意識、学校全体としての広がりはどうか。」など質問やそれに伴う課題提起などがなされました。

そして、中学校と地域がこれからともに取



り組んでいけることを検討しました。「エネルギーや資源ごみの有効活用などについての話し合い」「地域でいっしょにゴミ拾い活動」「地域に広げるあいさつ運動」「あいさつや花を育てる活動を通して深める地域との交流」など、どれもSDGsの視点を持ちながら、温かい地域交流へと発展していきそうな話題でした。生徒と地域住民、学校と地域の相互理解や関わり、互いの役割や貢献を高めていくことを確認し合うことができました。



最後に、同時に行われていた放課後学習支援「地域未来塾」を見学しました。

地域未来塾 (十月二十八・三十一・十一月一・二・四日実施)

地域未来塾は、宇都宮市教育委員会生涯学習課の支援のもと、中学生を対象に、自主学習の場所の提供や、質問対応等の学習支援を行うもので、地域住民などの協力を得て地域協議会を通して活動しています。昨年度に引き続き本

校では、宇都宮大学、帝京大学の学生等に、受験期を迎える三年生の学習支援を依頼し、三年生の三者懇談中の五日間の日程で実施しました。今年度は、五日間で延べ生徒は五十九名が参加し、学習支援員は延べ十九名となりました。丁寧な指導に呼応して積極的に学習する様子が見られ、五日間全て参加する生徒もいました。ぜひ今後も継続していけるとよいと思います。また、第三回地域協議会で前述の地域未来塾における地域住民による指導員の募集についてご意見があり、来年度検討していきたいと思っています。



一年「働く人に学ぶ」講師第三回地域協議会 (二月七日実施)

一年生の総合的な学習の時間で実施する「働く人に学ぶ」は、多様な職業の方を講師として迎え、その職業の内容や職業観について学ぶものです。昨年度に引き続き今回も、地域の様々な職業の方々に参加していただき、生徒がより身近に感じ、学べる機会を提供していただきました。七名中六名の方(JR運

士・建築士・美容師・カメラマン・保育士・調理師)をご紹介、ご協力をいただきました。昨年度は感染対策からZoomを使ってオンライン学習でしたが、今年度は対面学習が実施でき、その職業について貴重な資料や映像、実演など、どの方も工夫された講演でした。リアルな話、職業観、情熱、使命、思いといった、まさに本物の、生きた学習となりました。生徒にとっても協議会としても意義深い活動となりました。

その日の夜、第三回地域協議会が通常開催され、「働く人に学ぶ」の報告も兼ね、今年度の活動報告、学校評価アンケート結果報告、今年度の反省と課題・来年度の学校経営計画への意見提案について協議されました。

